

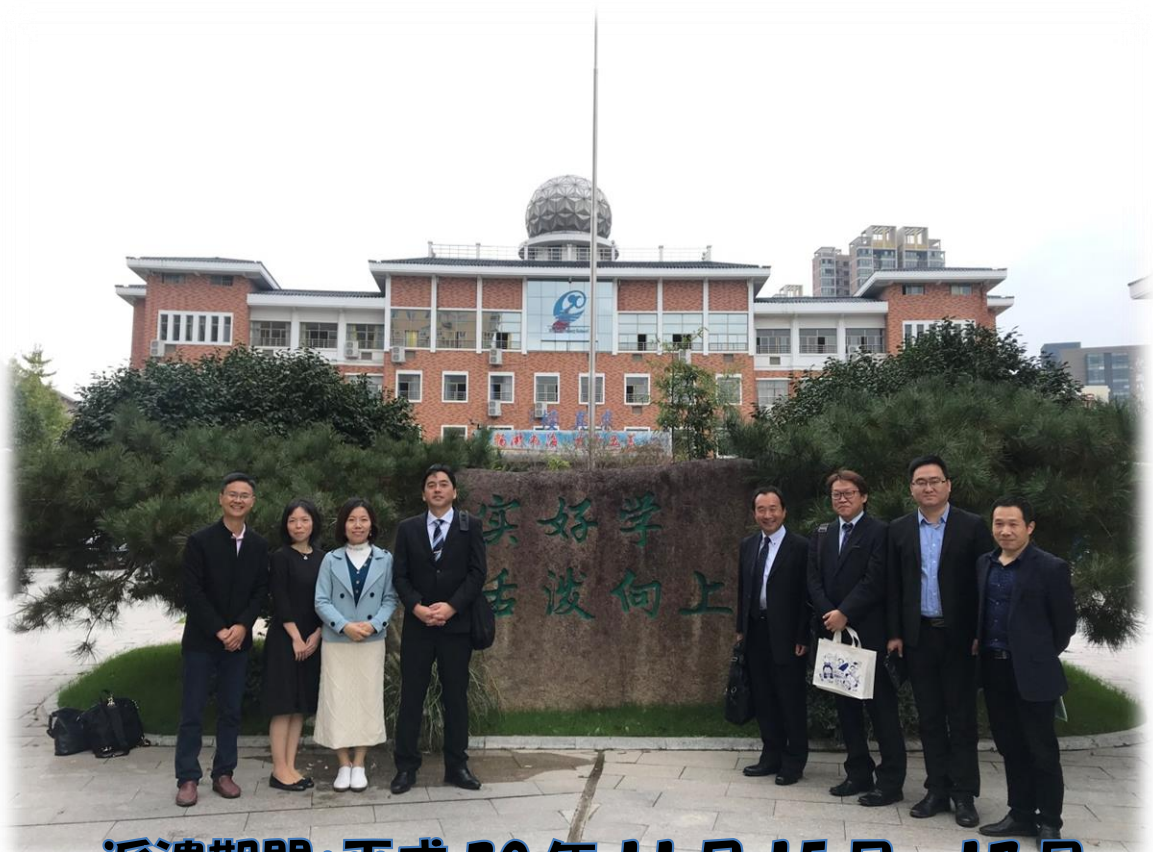


平成 30 年度



中国・义乌
Yiwu China

淡路市海外視察団派遣事業 中国浙江省義烏市視察報告書



派遣期間:平成 30 年 11 月 15 日~17 日

淡路市 AWAJI CITY

～目次～

◆義烏市の概要		1
◆義烏市とのこれまでの交流		2
◆淡路市海外視察団派遣事業の概要		3
◆視察ダイジェスト		7
◆派遣団員報告書		
☆義烏市小学校視察訪問	吉岡 幸広	11
☆新たな経済交流への取り組みに向けて	伊藤 雅樹	18
☆中国浙江省義烏市 視察派遣報告書	西濱 雅樹	20
☆淡路市海外視察(中国義烏市)報告書	薛 秋燕	23

【義烏市の概要】

いうし

1. 義烏市の概要

■地名（中国語・簡略字）

义乌市（イーウースー）

■場所

中国東南沿海の浙江省の中部に位置する。
中国最大の都市上海から西南に約 300 キロ。

■人口

223 万人余り

※淡路市の約 50 倍

■面積

1105 k m²

※淡路市の約 6 倍

■経済都市

改革開放開始以来、「商業を勃興し、都市を建設する」という発展戦略のもと、急速に発展した都市。現在 219 の国・地域と取引があり、世界各国のビジネスマンにとって国際貿易を展開する重要な拠点となっている。

■市場都市

世界最大の日用品雑貨卸売市場と称される義烏国際商貿城は、5 つの建物に分かれており、総面積 640 万 m² で、1 年間に訪れる外国人バイヤーは 50 万人以上。7 万軒の店舗があり、210 万種類以上の商品が集積されている。全ての店舗を見学するのに 1 年半以上かかると言われている。

■見本市都市

国家レベルの見本市が多く開催される。

■市のマーク・花・木



市のマーク



市の花（コウシンバラ）



市の木（楠の木）



義烏市位置



図 1)

義烏市とのこれまでの交流について

平成 21 年 12 月

義烏市と貿易を営む企業がきっかけで交流が始まる。

平成 22 年 3 月

義烏市視察団が淡路市を訪問。

以降相互に訪問団を派遣。

平成 25 年 10 月

義烏市からの招待により視察団を派遣。友好交流確認書を締結。

平成 26 年 1 月

義烏市から民間旅行業者を淡路市に招待し、外客誘致に向けた観光交流事業を実施。

同年 7 月

淡路市から市長を団長とする友好使節団を派遣。義烏市と友好都市協定を締結。

平成 27 年 10 月

- ・第 17 回日中韓 3 か国地方政府交流会議に参加するため、淡路市から財務部長を団長とする 3 名が義烏市を訪問。
- ・義烏市で開催される世界規模の国際博覧会での展示ブース出展に向け、商工会及び民間企業等 8 名で構成する視察団を派遣。
- ・淡路市 10 周年記念式典に出席するため、義烏市委員会龚副主席を最初の 6 名が淡路市を表敬訪問。

平成 28 年 9 月

- ・淡路市観光プロジェクト視察のため、義烏市から知東学会の毛さんを団長とする 4 名が淡路市を訪問。

同年 10 月

- ・民間交流の一環として、平成 27 年度に引続き、義烏市で開催される世界規模の国際博覧会の視察と民間経済交流に向け、商工会及び民間企業等 8 名で構成する視察団を派遣。

平成 29 年 5 月

- ・民間交流の一環として、世界規模で開催される義烏輸入商品博覧会及び日用品卸売市場を視察し、民間交流、博覧会でのブース出展検討に向け、商工会及び民間企業等 7 名で構成する視察団を派遣。

同年 6 月

- ・義烏市の民間企業団体 2 名が淡路市を訪問。

平成 30 年 11 月

- ・義烏市人民代表大会常務委員会副主任を最初の 6 名が淡路市を表敬訪問。
- ・来年（2019 年）友好都市提携 5 周年にあたり、周年事業の協議、経済交流及び新たな交流の取組、学校交流の 3 つの目的で商工会 1 名と市職員等 4 名で構成する視察団を派遣。

※これまでに、義烏市からは 17 回、淡路市からは 10 回相互に交流を深めている。

淡路市海外視察団派遣事業の概要

【期間】平成30年11月15日（木）～11月17日（土）3日間

【目的】

淡路市では、世界一の日用品雑貨市場を中心に目覚ましい経済成長を遂げている中国浙江省義烏市と、平成26年7月11日に友好都市協定を締結した。

これまでは、経済交流を図るため、世界規模で開催される「義烏国際小商品博覧会」、「輸入商品博覧会」の開催時期に合わせて視察団を派遣した。

今年は、義烏市から申し出があった下記の目的で視察団を派遣した。

- ①来年義烏市との提携5周年にあたり、記念イベントの企画を協議する。
- ②これまでの経済交流についての検証と新たな取組について協議する
- ③教育交流について、学校を視察する。

【行程表】

月 日	行程（スケジュール）
11月15日（木） 【義烏市泊】	淡路市→関西国際空港→中国杭州蕭山国際空港→クラウンプラザ義烏エキスポ（宿泊先ホテル）→知東学会（民間企業団体）と懇親会
11月16日（金） 【義烏市泊】	義烏市実験小学校視察（国語授業）→義烏市繡湖小学校視察（英語授業）→昼食（繡湖小学校にて）→義烏国際商貿城5区（輸入商品城）視察→義烏市輸入商会見学→義烏市赤砂糖生産基地見学→両市5周年記念事業打ち合わせ→義烏市人民政府、経済技術開発区等（11月に淡路市表敬訪問したメンバー6名）と懇親会
11月17日（土）	義烏市都市計画展示館視察→曹村農村建設（コミュニティ会館と花間楽園）視察→昼食→杭州蕭山国際空港→関西国際空港→淡路市

【主な訪問先】

◎義烏市実験小学校

1912年に創立。生徒数約3,000名（外国籍の生徒も在籍）、教員約230名。

◎義烏市繡湖小学校

1912年に創立。生徒数約2,100名、教員約110人名。

◎義烏国際貿易城

義烏国際商貿城は、「小商品の海、バイヤーの天国」と称され、1982年の創立以来、発展を続けてきた。

5つの建物に分かれており、総面積は470万m²で、通路の両側には1.5m×3mほどの広さの店舗が並び、商品があふれている。現在では、6万軒以上の店舗があり、170万種類以上の商品が取り扱われ、仮に1つの店舗を3分、1日8時間見学としたら、全ての店舗を見学するのに1年間以上かかると言われている。

また、一年あたりの取引高は、20年連続、中国全土の商業市場のなかでトップを占め、世界最大規模の小商品卸売市場として評価されている。

今回、11月5日～11月10日まで中国上海で開催された国際輸入商品博覧会の一部ブース（420社、45ヶ国）が義烏国際貿易城の5区の輸入商品館で1月まで延期展示する。その内、日本ブースは30社も出展。

◎義烏都市計画展示館

2016年1月に完成した施設です。2階建てで、総工費は約17億円で展示面積は12,000m²です。館内は8つのコーナーに分かれており、映像、写真、模型を通して義烏市の歴史文化、都市計画に触れることが出来る。

◎義烏赤砂糖生産基地

2017年5月から赤砂糖生産基地の建設を始め、2018年10月から義烏市ブランドの赤砂糖を生産開始。基地内には、サトウキビの栽培面積は5400ヘクタールで、生産工場と販売センターの敷地面積は8273平方メートルです。

◎義烏市都市計画展示館

2016年1月に完成した施設です。2階建てで、総工費は17億円で展示面積は12,000m²です。館内は8つのコーナーに分かれており、映像、写真、模型を通して義烏市の歴史文化、都市計画に触れることが出来る。

◎花間楽園

義烏市郊外にある花間楽園は敷地面積12,750ヘクタールで、総工費は25億円です。工事は3期に分けて整備する。1期工事は2018年9月に竣工し、2019年の元日に正式営業予定です。公園内に7,500ヘクタールの芝桜が植えられ、丘一面花と香りを楽しめる花の楽園です。また、公園内に汽車、芝滑りなどの遊具もあり、一日たっぷり遊べる公園です。

【面会者リスト】

11月15日（木）

杭州蕭山国際空港への出迎え

1. 鮑 曉倩 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 総務課職員

知東学会との懇親会

1. 毛 文傑 義烏市知東学会 会長 兼 日中産業友好協会 浙江支部 支部長
2. 万 紹強 中国Eビジネス協会 秘書長
3. 銭 棟 義烏市輸入商会常務副会長
4. 方 寒聡 自玩自健体育発展有限公司 副総経理

11月16日（金）

義烏市実験小学校視察

1. 方 敏 義烏市実験小学校 校長
2. 李 曦 義烏市教育局 副局長
3. 龔 希明 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 副主任
4. 湯 玉婷 義烏市人民政府外事と僑務弁公室秘書科 日本語通訳

義烏市繡湖小学校視察

1. 王 鴻 義烏市繡湖小学校 校長
2. 李 曦 義烏市教育局 副局長
3. 龔 希明 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 中国共産党組員
4. 湯 玉婷 義烏市人民政府外事と僑務弁公室秘書科 日本語通訳

義烏国際商貿城5区（輸入商品城）と中国国際輸入商品博覧会義烏展視察（2018.11.13～2019.1.15）

1. 呉 小平 義烏市経済技術開発区管理委員会 副主任
2. 龔 希明 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 中国共産党組員
3. 湯 玉婷 義烏市人民政府外事と僑務弁公室秘書科 日本語通訳

義烏市輸入商会見学

1. 銭 棟 義烏市輸入商会常務副会長
2. 龔 希明 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 中国共産党組員
3. 湯 玉婷 義烏市人民政府外事と僑務弁公室秘書科 日本語通訳

義烏市赤砂糖生産基地視察

1. 王 義民 義烏市億民食品有限公司総経理
2. 龔 希明 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 中国共産党組員
3. 湯 玉婷 義烏市人民政府外事と僑務弁公室秘書科 日本語通訳

義烏市人民政府及びその他関係部門と懇親会

1. 胡 愛芬 義烏市人民代表大会常務委員会 副主任
2. 葉 国江 中国共産党義烏市委員会組織部副部長、義烏市人材誘致局局長
3. 呉 小平 義烏市経済技術開発区管理委員会 副主任
4. 呉 文慶 義烏市情報光電高新技术産業園区管理委員会 副主任
5. 龔 希明 義烏市人民政府外事・僑務弁公室 中国共産党組員
6. 黄 亦 義烏市外事サービスセンター 主任

義烏市花間楽園視察

1. 寿 偉標 義烏市花間公園管理責任者
2. 龔 希明 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 中国共産党組員
3. 湯 玉婷 義烏市人民政府外事と僑務弁公室秘書科 日本語通訳

視察ダイジェスト



5周年記念イベントに向けての協議



友好親善



4日前、淡路市を訪れてくださった皆さんと再会

小学校視察



義烏市実験小学校

生徒数 3000 人 教員数 230 人 1912 年創立



体を動かす「活動の時間」



教師の4つの理想像



芸術館校舎、科学館校舎等



4階建て校舎



3年生の「国語」授業



ICT による授業



大きなエントランスホール「校訓」が出迎え



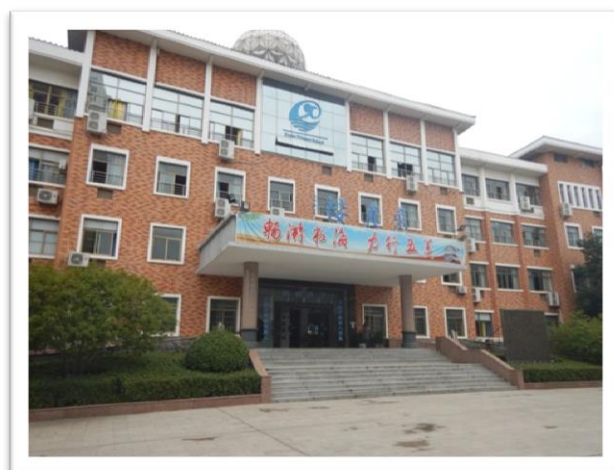
団長の吉岡特命参事と子どもたちの交流



特色ある取組「書法」伝統文化の継承



廊下のあちこちに図書コーナー



義烏市繡湖小学校
生徒数 2100 人 教員数約 110 人 1912 年創立



6年生の英語授業（ALL ENGLISH 授業）



団長の吉岡特命参事と子どもたちの交流

経済交流



知東学会の皆さまと



義烏市国際貿易城（輸入商品館）



輸入商品展示会場



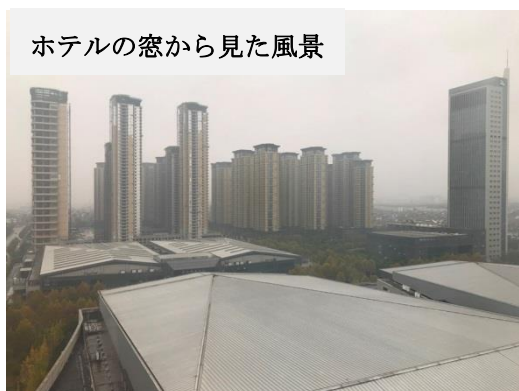
義烏市輸入商会にて



義烏都市計画展示館



まちかどスケッチ



義烏市小学校視察訪問

淡路市教育委員会学校教育課
指導主事 吉岡 幸広

私は2007年度から2009年度までの3年間、上海日本人学校で教員として勤めました。2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博に象徴されるように中国の経済成長が加速度的に伸びている最中であり、街は賑やかで、人々の生活も目まぐるしく変化する時代でした。

今回の義烏市訪問の旅程は2泊3日、初日と最終日がほぼ移動でありましたので義烏市に滞在できたのは短い時間でしたが、それでも義烏の街から10年前の上海に似た人々の熱意、街のエネルギーを強く感じました。

義烏市都市計画展示館には、振鼓（日本のでんでん太鼓に似た太鼓）を手に持つ人形があります。義烏市は古くは農村であり特に他所の村と変わらない場所でありました。しかし、義烏市の人々は農閑期に箒や束子などの雑貨を作り、近隣の村に商売に出向いて行くことで財をなしていったということです。その時人々を集めるために叩いたのが振鼓であり、その商いの様子が義烏市の経済発展のルーツとして展示されているのです。



今や義烏市は中国東部最大の物流基地に発展を遂げました。世界中からバイヤーが集まり、日用品や雑貨を扱う巨大な商城（マーケット）が点在しています。2014

年にはスペインのマドリードと義烏市を結ぶ鉄道が開通しました。途中カザフスタンやロシア、ドイツやフランス等を通り、ヨーロッパのみならず中東との貿易の大動脈としての役割を果たしています。その勢いが街のあちこちから感じられました。

義烏市に到着した夜、露店が立ち並ぶ“賓王夜市”を訪れました。雨があ



がったばかりだというのに大変な賑わいを見せています。食品、衣料品、装飾品、カバンや靴等、多種多様な商品を扱う小店が所狭しと立ち並んでいました。10年前の上海と異なるのはアラブ系の人とヨーロッパ系と思われる人が目についたこと。店を出している方もアラブ系の方が数多くいらっしゃいました。

しかし、夜市でもっとも私が個人的に印象に残ったのは、10年前にはこのような市では中国全土のどこに行っても必ず販売されていた「あるもの」が全く売られていなかったことです。それは何か、後ほど述べたいと思います。



夜市の屋台で「麻辣烫」という料理を注文しました。日本人学校勤務時代よく仕事帰りに食べていたもので、客が自分で野菜や肉、麺等の具材を選び、辛いスープでゴった煮にしたものです。中国のガイドブックには「中国風おでん」と訳されることもあります。懐かしく頂きましたが記憶より辛い。あとでガイドの方に聞くと、この地方の方々はあまり

辛いのは好みではないということで、滞在中に郷土料理である羊肉料理などを頂きましたが、どちらかというと味付けは濃い方ではありませんでした。

久しぶりに食べた「麻辣烫」は18元。約300円です。10年前上海でよく食べていたのは10～15元。中国は物価の上昇が激しいと聞いていたのですが、滞在時間が少なく正確なところは不明でした。しかし、湾岸都市部の物価が内陸地方都市にまで及んでいることを踏まえればやはり中国全体で様々な物価上昇が起こっているのだと推測されます。

帰りのタクシーで、料金を支払おうとしたときです。10元札2枚で支払おうとすると、運転手さんは驚いた顔で「小銭がない。」と言うのです。中国ではもう既に「電子決済」が当たり前で、店頭に掲げられているQRコードにスマートフォンをかざすことで支払うスタイルがどこでも浸透しています(AliPay・WeChatPay等)。実は、先程立ち寄った夜市の露店や屋台でもほぼ全ての店で電子決済が完備されており、「麻辣烫」屋台でも現金で支払っているのは私ぐらいという状態でした。

先程の「10年前の夜市では当たり前だったが、現在売られてないもの」とは「財布」です。誰も財布を持ち歩かない。持つ必要がない。だから売れない。売らない。たった10年ですが、生活スタイルの変化を痛感した出来事でした。

そのような経済成長著しい中国にあって、学校教育はどのように変化しているの

でしょうか。11月17日に2つの小学校を訪問し、実際の授業を見学しました。

1校目は義烏市実験小学校です。珍しい名前だと思われがちですが、「実験小学校」というのは各地にあり、教育カリキュラムや新しい指導方法などを実践開発する役割を担っています。日本でいえば「研究指定小学校」「教育大学附属小学校」といったところでしょうか。



私は10年前に上海市にある「実験」小学校を訪問したことがあります。当時まだ珍しかったプロジェクターが配備され、既にデジタル教材を使う授業を試みており、先生からは子どもたちの教育に力を入れていこうという気概が感じられました。ただ、授業はまだまだ一斉学習方式が主流でした。教師が1つ問題を出すたびに子どもたちは手を挙げ、答える。このパターンが続く授業が多かったように思います。ただ、1つの教室の算数では、具体物（積み木や粘土）を使って子どもたちに立体づくりをさせている授業がありました。後で尋ねると、様々な教育の研究等を参考に創造性を発揮できる授業を取り入れてみたという答えが先生から返ってきたのを覚えています。

今回の義烏市実験小学校はまるでその時の算数の先生の意図を具現化したような授業を展開していました。

まず、教室設備に驚かされました。どの教室もパソコンと連動した電子黒板一体型プロジェクターが完備されており、デジタル教科書に沿って授業が行われます。参観したのは小学校3年生の国語です。テーマは「看图写话」。「絵を見て話を書こう」です。



3つの授業場面から構成されていました。

まず「看（見る）」。子どもたちはデジタル教科書が映し出す絵を見ます。どうやら小さなネズミが主人公のようで、絵が次々と変わり、話が進んでいきます。途中先生は子どもたちに質問したり解説したり、物語についていけない児童がいないか確認しながら進めているようです。



次に「想（考える・想像する）」。今のお話はどのようなお話か、グループで話し合いました。デジタル教科書の絵から自分が思ったことや感じたことをもとに、自分が想像したお話を交流します。

最後に「写（書く）」。自分で物語を作文します。中国語は当然全て漢字で

書き表されるわけですが、例えば3年生で難解な漢字が必要な場合は「ピンイン(中国語の発音をアルファベットを用いて表記したもの)」で表すなど書くことを妨げない指示がなされていました。

授業を通じて、子どもの想像力を刺激し、友達と交流することによって更に創造性を高め合う工夫がなされていることを感じます。日本でも2020年より始まる新学習指導要領においては、ただ与えられた課題をこなすだけの学習ではなく、予測不能な未来に求められる学力を見越して「主体的・対話的で深い学び」という学びの変革が学校現場に求められています。今まで私が抱いていた授業の印象から脱却した中国の小学校の姿を見て、新しい時代に対応した授業へ不断の努力をしなければならぬと改めて考えさせられました。

模倣からオリジナルへ。ドローン技術やビッグデータの活用分野で日本を凌ぐとされている中国が教育で目指すものを垣間見たような気がします。



2校目は、昨年度も淡路市使節団が訪れたという義烏市繡湖小学校です。学校の付近に繡湖という美しい湖があり、学校の特色化として伝統文化である「書法（書道）」に力を入れています。

校長先生に案内していただき、小学生が書いた素晴らしい書を見学した後、私の希望で英語の授業を参観させていただきました。

た。

現在日本では、英語の授業について「外国語活動」として5・6年生に位置づけられています。2020年度全面実施の新学習指導要領においては「外国語科」、つまり教科として位置づけられます。また、現在は実施されていない3・4年生に対しても「外国語活動」として英語学習がスタートします。(現在は移行期間。)

一方、中国は 2000 年代初頭から 3 年生以上に対して英語授業が行われています。既に 20 年近くが経過している現在、どのような授業が行われているかを参観したいと思いました。

繡湖小学校も実験小学校と同じく、ICT 環境整備が非常に進んでいました。電子黒板一体型プロジェクター、デジタル教材、Wi-Fi 設備等、どの教室にも完備されています。

授業は 6 年生の英語を参観しました。「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 つの技能について、活動を通してバランスよく行われている印象です。

英語の歌を歌ったり、先生の質問に答えたりはもちろん、ジェスチャーで表現したり、教科書の音読や書き込みなど 5～10 分程の短い活動が多く盛り込まれていました。印象的だったのは、教師の質問に受け答えする児童が単語ではなく必ず 2 文～3 文を用いてセンテンスで答えていたこと。3 年生からの積み重ねを感じまし



た。

また、ICT の授業での使い方が巧みです。音楽をかけたり、画像を出したり、テキストの文を映したり、映像を流したり。教師の ICT スキルの高さがテンポの良い授業づくりを支えている様子でした。淡路市教育委員会が進める淡路市タブレット活用教育推進

事業では ICT を活用した授業改革を進めていますが、大変参考になる内容でした。

さらにオールイングリッシュの授業です。教師は中国語を極力使わず、英語のみで授業を行っていました。

しかしこれは日本の教育システムでは非常にハードルの高い課題です。

中国の教師は小学校においても教科担任制です。英語の授業は英語の専門教師が行っています。

一方日本の教育システムは・・・？

小学校教師は全ての教科を担当します。国語、算数、体育等、既に様々な教科を教え、さらに新しく導入される予定の英語が加わります。より充実した指導体制に

ついて、文部科学省他、教育機関が真剣に取り組むべき課題であると感じます。

2校を訪問し、中国の学校現場は大きく変わってきていると感じました。それもかなりのスピードです。



視察で得た感想をある日本の教育研究者に伝えたところ、「日本ほど強固な教育システムがなかったからゆえの変革の早さでしょう。」という意見をいただきました。日本の教育は、世界で非常に高い評価を得ています。児童生徒は学習指導要領に基づいた系統的な授業を日本のどこにいても受けることができ、教員が実践や研修で積み重ねた指導方法や指導技術は蓄積され、受け継がれ、成熟し、ある意味安定しています。

だからこそ、日本の教育は「変わる」ことに時間がかかります。そのことに自らが気づいていないと、目まぐるしく変革していく世界の教育の中で取り残されていないかという印象を強く受けました。

ここまで、私が義烏市を視察して考えたことを述べてきました。ただ、今回義烏市を訪問するにあたって、私は視察だけでなくぜひ交流をしてみたいと考えていました。

幸いなことに、訪問した2つの小学校でその機会を頂くことができました。それぞれの授業の参観後に、少しの時間ですが飛び入りの授業をさせて頂くことができましたのです。



名前を紹介したり、日本の小学生の教科書を見せたり、アニメのキャラクターを

描いたり・・・決して授業と呼べるようなものではありませんでしたが、一生懸命伝えた私に両小学校の子どもたちは本当に一生懸命聞こう、理解しようと努めてくれました。

笑顔は世界中どこでも変わることはありません。改めてそう気づかせてもらいました。私の言葉はきっと無茶苦茶だったと思います。それでもなお、私自身の気持ちは伝えることができましたし、突然の出会いを楽しく思ってくれたという気持ちは伝わってきました。(思い込みかもしれませんが・・・！？)

今後淡路市との間で進展していくかもしれない「交流」の可能性について、子どもたちが直接ふれあう交流が実現するにはまだまだ数多くの解決すべき問題・課題があると思います。しかし、教育においてもグローバル化への対応が求められる時代にあって、淡路市と義烏市の間に積み重ねられてきた絆は素晴らしいものがあるのではないのでしょうか。「視察」から一步踏み出さなければ「交流」はあり得ません。この絆を今後どう深めるか、きっと考える価値のある課題であると思います。

貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

新たな経済交流への取り組みに向けて

会社名 淡路市商工会

氏 名 伊 藤 雅 樹

1. 淡路市商工会が取り組む地域経済の活性化

地域内での消費を喚起し、地域外からの外貨獲得に努め地域内で資金が循環する仕組みを作っていく中で、地域事業者の経営力強化や雇用創出等により地域経済の活性化を図っていく。

①観光客等の交流人口増加による地域内での消費拡大

～淡路島に来てもらうための観光情報発信～

市内にある地域外の人達にとっても魅力的な「もの」や「こと」

②商品開発及び販路拡大事業による地域外からの外貨獲得

～淡路の良い物を島外に発信する取り組み～

地域外での商談成立や販売実績を作り、地域内の生産や消費拡大を目指す。

2. 淡路市と義烏市による新たな経済交流の可能性

①インバウンド事業（訪日外国人旅行者の誘致）

◎訪日外国人旅行者数の動向

（千人）

	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
総 数	13, 413	19, 737	24, 039	28, 691	26, 109
中 国	2, 409	4, 993	6, 373	7, 335	7, 163

2018 年は 10 月現在

1. 受入対象施設

宿泊・飲食・物販・体験・観光施設・・・等々

2. 義烏市からの旅行対象者

個人及び団体客・企業・各種団体・学校・自治体・・・等々

3. 今後の取り組み

i 市内での受入希望施設の把握と対応言語の確認

ii 義烏市からの企業（産業観光）や学校（修学旅行）単位での旅行者の受入

iii 就業体験、スポーツ大会、テレビ取材や映画ロケ地の誘致・・・等々

iv 両市共催による現地での観光PRキャンペーンの実施

v 訪日旅行を取り扱う現地旅行会社へのプロモーション活動

vi 義烏市⇄関空直行便開設に向けての義烏市との連携

②貿易取引（輸出入）

◎中国の対日輸出入額動向

(100 万ドル)

	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
対日輸出額	150, 132	149, 442	135, 671	129, 245	137, 324
対日輸入額	162, 245	142, 997	142, 987	145, 555	165, 653

1. 淡路市からの輸出品目

農水畜産物及びその加工品等・機械機器・地場産品（線香）・等々

2. 義烏市からの輸入品目

日用雑貨・工芸品・服飾・アクセサリ・食料品・飲料・等々

3. 今後の取り組み

i 両市で輸出入を希望する企業情報や商品ニーズ、法規制等のマーケティング

ii 貿易実務の習得（契約⇒輸送⇒決済）

言語や通貨、商習慣や法規制等異なる面が余りにも多く様々なリスクが伴う

iii 輸出入業務を行う代理店や商社の選定（中国に拠点を構える日本人が理想）

取引交渉や契約締結、通関手続きや商品の輸送、代金決済等の代理

iv 両市共催による現地法人向けの展示商談会の開催

v 義烏市で開催される国際輸入博覧会出展

3. 中国浙江省義烏市視察所感

民間事業者レベルでの観光振興や直接貿易取引では、なかなか進展が望めない。両市が主体となって民間事業者等の関係者をコーディネートしながら様々な取組を進めていくことで、新たな交流が生まれてくる可能性が十分にあると考えられる。

中国浙江省義烏市 視察派遣報告書

淡路市企画政策部秘書広報課
課長補佐 西濱 雅樹

2018年11月15日から17日までの3日間、中国浙江省義烏市(淡路市友好都市)を訪問しました。義烏市は、浙江省の中部に位置し、南に広東省、福建省、北は上海に隣接している。人口は、地元人口約80万人 移住人口などを合わせ総人口223万人の都市である。(参考：日本では、大阪府、愛知県、北海道と同等の人口規模の都市である。)

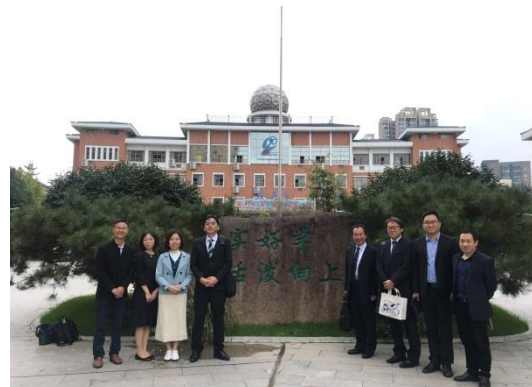
歴史的には、秦の始皇帝時代より、でんでん太鼓を鳴らし「飴の行商」を行うといった商業発祥の都市であり、現在でも義烏市のシンボルとして使われている。

義烏市は、もともと浙江省でも貧困な農業県であったが、地域政府は、商業振興(日用雑貨の卸市場等)による都市建設を進めた。その後、中国政府の協力もあり、「義烏国際商貿城(福田市場)」「中国小商品城」「賓王市場」の三つの大規模市場が設置され、中国国内の日用品卸市場で貿易額がトップとなり、今や、1日20万人以上のバイヤーが訪れる、巨大卸売マーケット都市となった。少し都心を離れると古い農村県の面影が随所に目につくが、市内は、高層ビルや目新しい建物が混在しており、人口密度が非常に高く、昼夜問わず常に活気が溢れていた。

今回の訪問では、これまでの経済交流に加え、教育部門での交流プログラムを見出すための目的をもっており、この提案に関しては、義烏市側も教育交流には以前から高い関心をもっており、大変こころよく受け入れられた。

訪問初日の視察では、「実験小学校」と「繡湖小学校」を視察した。両校とも100年以上の歴史をもつ学校であり、実験小学校は、もともと学校の教育プログラムを研究するための模範校、繡湖小学校は書道教育に重点をおく、たいへん特色のある2校である。視察では3年生の国語科目と6年生の英語科目を視察した。

教室の雰囲気は一見、日本の教室と変わらないが授業の取り組みは違っていた。教室の黒板はIT機能が導入され、タブ



繡湖小学校にて
義烏市教育委員長、学校関係者の皆さんと



実験小学校にて日本式の授業の実施風景

レット・スマートフォンのようなもので授業が行われていた。3年生の授業では、児童にネコとネズミ2匹の動物の絵を見せ、展開を考え、作文を作るといった物語性や感情論を教育する授業を行っていた。また、6年生の英語科目では、授業がすべて英語で行われていた。日本では小学校での英語

科目の導入予定が2020年とされており、学校教育部門での違いを感じた。授業には実際に吉岡団長（教育部特命参事）が日本の古典教科書を用い、現地の子どもたちに実際に授業を行った。子どもたちは吉岡団長の授業にとっても感心をもち、最後にSNSを使って「日本の子どもたちと一緒に勉強（交流）をしてみませんか？」との提案に、教室の子どもたちから自然と大きな拍手が起こったことが、たいへん印象的だった。



義烏国際商貿城5区(輸入商品城)

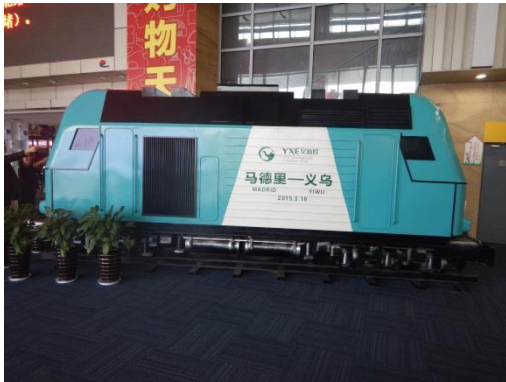
経済交流では、「義烏国際商貿城5区(輸入商品城)」と「義烏市都市計画展示館」を視察した。義烏国際商貿城は1～5区で構成されており、雑貨を主に扱う店舗が所狭しに並んでいた。施設の解説では、全長5km、東京ドーム約30個分のスペースに約6万件の店舗が入っており、210万アイテムもの豊富な品ぞろえとなっている。1店舗を約3分で見て回ると1日

8時間として、すべての店舗を見るのに1年半かかるという想像を絶する規模の施設となっている。

義烏市都市計画展示館では、義烏市の経済発展の歴史を詳細に知ることができた。SNSやニュースでも話題となっていたが、中国には「一带一路」という巨大な2本の列車ルートがある。一つは、中国西部から中央アジアを経てヨーロッパへつながる「シルクロード経済ベルト」（一帯）と、中国沿岸部から東



義烏市都市計画館の巨大ジオラマ



「一帯一路」を結ぶ列車の一部

南アジア、スリ Lanka、アラビア半島の沿岸部、アフリカを結ぶ「海上シルクロード」（一路）といった、巨大な現代版シルクロードである。中国は、この巨大な 2 本の産業ベルトを 2011 年に開通させ、欧州 12 カ国 33 都市が、50 以上のルートで結ばれている。また、ヨーロッパへの発信地点は義烏市であり、終点のスペイン・マドリードまでの距離が約 1 万 3000 キロ、列車は 3 週間かけて大量の貨物を運んでいる。

館内では、このように最新の展示技術と映像を駆使した立派な施設となっており、義烏市の古い歴史と急激な経済成長を遂げている都市のメカニズムを学ぶことができた。

義烏市での最後の夜には、11 月に淡路市を訪問された、胡 愛芬（義烏市人民代表大会常務委員会 副主任）をはじめ、6 名の義烏市使節団の方々が私たちのために夕食会を開催してくれました。夕食の席では、来年迎える、友好都市提携 5 周年の記念事業の話題や今後の両市のまちの発展について話題が絶えなかった。



義烏市政府の皆さんとの歓迎夕食会

最後に、義烏市 胡（コ）政府副主任から私たち視察団へ「もう私たちは友達です。義烏市は両市の発展に全力をつくします。これからは義烏市と淡路市の人が交流しやすい環境づくりを共に考えましょう。」とメッセージをいただき、私たちは、義烏市とこれまで積み重ねてきた友好関係が、更に深まるものと交流の意味深さを強く感じさせられた訪問となった。

淡路市海外視察（中国義烏市）報告書

淡路市企画政策部秘書広報課

国際交流員 薛 秋燕

中国義烏市への訪問は、2年前の義烏国際小商品博覧会視察、昨年の義烏輸入商品博覧会ブース出品に向けた現地視察に引き続き、今回で3回目の訪問となりました。今年は、下記の3つの目的で商工会から1名、市職員から3名の計4名が義烏市を訪問しました。

1. 訪問目的

- ①来年義烏市との友好提携5周年にあたり、記念イベントの企画を協議する。
- ②これまでの経済交流および新たな取組を検証する。
- ③義烏市から申し出があった教育交流について、学校を視察する。

2. 記念イベントの企画

両市友好提携5周年（2019年）に向けて、周年記念事業の考え方について協議を行ないました。

◎淡路市から下記の提案したことについて、義烏市が合意しました。

- ①2019年の周年記念会場を義烏市で行う。
- ②2020年（淡路市制15周年）の会場を淡路市で開催し、当市の歴史や文化、賑わう町の様子を義烏市使節団に体験していただきたい。

◎義烏市人民政府からの提案

周年事業のシリーズイベントとして

【経済交流】

- ①2019年5月に開催される義烏市輸入商品博覧会のタイミングで使節団を派遣してほしい。（博覧会の会場には、市友好都市専用の特別ブースを設置予定）
- ②2019年11月の国際装備展示会に淡路市の企業 PRIMIX のブース出展を依頼したい。

【教育交流】

- ①学校教育者（校長）による相互交流
- ②スポーツ（サッカー、吹奏楽など）の交流
- ③義烏市小学生の淡路市への修学旅行の実施。淡路市の子どもたちの交流訪問など。

義烏市からの提案について、持ち帰り協議するということで義烏市人民政府に承諾を得ました。

3. 経済交流

義烏商貿城（輸入商品館）を視察しました。今回、11月5日～11月10日まで中国上海で開催された国際輸入商品博覧会の一部ブース（420社、45ヶ国）が義烏国際貿易城の5区の輸入商品館で1月まで延期展示し、その内、日本ブースは30社も出展していると聞いて、日本ブース展示場を見回っていました。その後、知東学会の若手社長が経営している輸入商会を見学しました。社長の話では、日本製品では、特に化粧品、健康食品、キッチン雑貨、ベビー用品を中心によく売れているようでした。



義烏商貿城



義烏輸入商会

また、今後新たな交流を検討いただく参考として、義烏市赤砂糖生産基地、義烏市都市計画展示館と農村建設施設（コミュニティ会館と花間樂園）を視察しました。義烏市都市計画展示館のスケールの大きさ、展示物のクオリティの高さに驚きました。このような壮大な都市計画に、ビジネスチャンスが十分あると実感しました。言語や通貨、法規制などの課題がありますが、淡路市の企業が「視察」から「出展（交流）」へ一歩踏み出すことを期待しています。

4. 教育交流

義烏市から申し出があった教育交流について、義烏市実験小学校の3年生の国語授業と繡湖小学校の6年生の英語授業を視察しました。

2校ともICTを活用して、音楽、画像、映像を通して学ぶ新しい授業スタイルに取り組んでいます。3年生の国語「看图写话（絵を見て作文）」授業では、子

どもたちが絵を見て、自由な発想を語り合う姿がとても印象的でした。6年生の英語授業では「聞く、話す、読む、書く」を重視し、ALL ENGLISH 授業をみせてくれました。



義烏市実験小学校 3年生「国語」

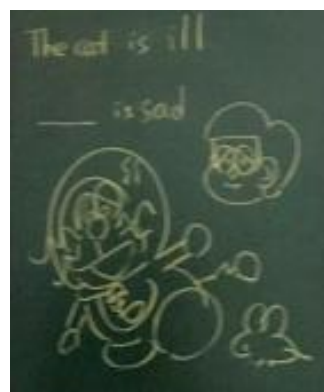


義烏市繡湖小学校 6年生「英語」

それぞれ授業参観の終わりに、少しの時間ですが、学校教育課の吉岡特命参事が授業内容の流れに即興的に現地の小学生でも大人気なアニメのキャラクター「ドラえもん」の絵を書くと、「ドラえもんだ！知っている！すごい！」と歓声が上がりました。また、「日本の小学生の子供たちはあなたたちがよく知っている漢詩の「春暁」を習っていますよ。将来、両市の子どもたちがICTを通して交流できますね」と伝えたら、大きな拍手をいただきました。



吉岡特命参事が子どもたちとの交流



「ドラえもん」が大人気

5. 義烏市人民政府の皆さまとの親睦

11月に淡路市を訪れてくださった義烏市の皆さまと懇親会を行ないました。義烏市人民代表大会常務委員会の胡副主任は、「淡路市は空気・風景が美しい。食べ

物が美味しい。淡路市で撮影した映像を義烏市のテレビ番組で放送し、義烏市からの観光客を増やしたい」と良い環境に感心されたように話しました。

6. 視察所感

義烏市への視察は3回目となりましたが、交流はやはり互いに会って、話し合っ
て感じ合うことは大切だと思います。特に今回の学校視察で吉岡特命参事と現地の
子どもたちとの触れ合いを見て強く感じました。義烏市との交流事業は、来年友好
提携5周年を迎え、新たな出発を迎えます。義烏市人民政府のバックアップの関係
で、淡路市の魅力を義烏市を通してPRし、観光客誘致に取り組み、交流人口の増
加を図り、「世界的な観光立島」にふさわしい交流ができればと考えています。課
題がありますが、焦らずに一步一步前進できるように、引き続き交流を重ねていき
たいと思います。両市の良い交流ができるように、微力ながら最大限に国際交流員
の役割を果たしていきたいと思っています。

淡路市海外視察団派遣事業 中国浙江省義烏市視察報告書

発行・編集 淡路市企画政策部秘書広報課
兵庫県淡路市生穂新島 8 番地
TEL (0799) 64-2501 (直通) FAX (0799) 64-2531
発行年月 2019 年 (平成 31) 年 1 月